



## いろんな色で

事務局員

徳永 前啓

「どんないろがす  
き？〇〇のいろが  
すき いちばんさき  
になくなるよ〇〇  
のクレヨン」とい  
う童謡を耳にしたこ  
とがある人は多いの  
ではなからうか。先  
般、年少組に通う長  
男が幼稚園の発表会  
で歌ったのだが、歌  
詞の通りステージ上  
の園児からはそれぞ  
れの色が伝わってき  
た。一方、新たに小  
学生となる長女の元  
には、ピカピカのラ  
ンドセルが届いた。

私の頃は専ら黒か赤  
で、その他の色は珍  
しく感じたが、現在  
では実にさまざま  
色で製造されてい  
る。その中で娘が選  
んだのは「ピスタチ  
オ」なる色で、お参  
りの檀信徒に聞かれ  
ても言葉ではうまく  
伝わらず、ついには  
現物を見てもらうの  
が常となった。この  
ようなところにも、  
昨今よく耳にするよ  
うになった「多様性」  
が垣間見える。色と  
いうものは、しばし

## 十人十色。でも目指すものは同じ

ばカラー、キャラク  
ターなどとその人を  
端的に表す際に用い  
られる。我々はそれ  
その個性、能力、  
才能、適性などを認  
めた上での共生を求  
められるが、すでに  
お釈迦さまは『法華  
経』の薬草喻品第五  
において、「諸々の  
草木へ降り注ぐ雨」  
を以て巧みに説かれ  
ている。

とところで仏教で  
は、例えば「色香美  
味」（法華経如来寿  
量品…法華経の超  
勝性を示す）のよう  
に「色」を「シキ」  
と読む。色とは、形  
あるものの総称であ  
り、また、私たち人  
間を構成する5つの  
要素（五蘊）では  
肉体を意味し、心の  
はたらきと深く結び  
ついている。

ち身体と心の両面に  
おいて読誦すること  
で、家族をはじめ一  
切衆生を救うと示さ  
れ、身・口・意の三  
業に法華経を受持  
し、修行すべきと説  
かれる。また日蓮聖  
人は、自らを日本第  
一の法華経の行者と  
称して体現された  
が、これを「色読」と  
いう。十人十色、  
私たちはそれぞれが  
唯一無二の存在であ  
るが、目指すべき境  
地は同じく、なおか  
つ法華経によって等  
しく導かれる。力強  
き宗祖のお姿に思い  
を馳せながら、法華  
経を実践することで  
現在の難局をも乗り  
越えていきたい。

◇ ◇

徳永前啓／昭和61年  
生まれ／立正大学大  
学院博士後期課程研  
究指導修了／福岡日  
青会／妙善寺住職